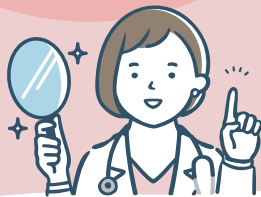


# 顔面輪郭形成術を 受けるに当たっての注意点



倉片 優 Kurakata Masaru 公益社団法人日本美容医療協会 理事

顔面輪郭形成術は、以前は美容外科手術の中でもかなりマイナーな手術で、手術を受ける患者さんもそう多くはありませんでした。しかし、最近はSNSの普及に伴って美容外科手術が増加傾向をたどるとともに、顔面輪郭形成術の手術件数も増加傾向にあります。

そこで今回、顔面輪郭形成術を受ける前に知っておくべきことをまとめました。

## 輪郭3点と両アゴ手術

顔面輪郭形成術の中でも最近よく耳にするのが輪郭3点と両アゴ手術という言葉です。輪郭3点というのは、頬骨、エラ、オトガイ(アゴ先)の3つの手術のことを指します。すべてを同時にやらなくてははいけないというわけではなく、これらの手術を必要に応じて選択することになります。両アゴ手術というのは上アゴと下アゴの骨を切って移動させる手術のことで、詳細は後述します。

## 頬骨の手術(図1)

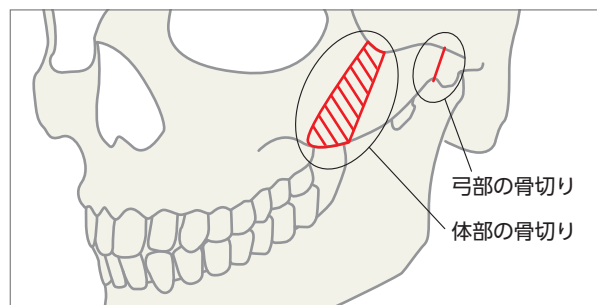
頬骨に対する手術は大きく分けて、頬骨を削る手術と頬骨を骨切りする手術に分けられます。用いられる手術法としては、非常に軽度な突出に対しては、骨の表面を削り取っていく方法を選択します。高度な突出の場合には頬骨そのものを骨切りし移動させる手術法を選択します。さらにこの2つの方法を組み合わせて用いることもあります。手術は口腔内の切開ともみあげ後方の1cmほどの切開から行います。

頬骨は形態上、体部には厚みがありますが、

弓部に厚みがないため、削ることができるのは体部のみとなります。体部のみでは、斜めから見たときの頬骨の突出はある程度改善できますが、正面から見たときの横幅を変化させることができません。

頬骨の骨切り手術は口腔内から頬骨体部の骨を一部切除し、もみあげ後方の切開から頬骨弓部の骨切りを行います。そして頬骨体部と弓部を一体として内側に引き寄せ、頬骨の横幅を狭めます。体部には多少の段差が出ますので、その部分は削って段差をなくします。骨切りされた骨同士はチタン製のプレートを用いて固定されます。このような骨切り手術は、言ってみれば骨折したのと同じことですので、この固定が重要なポイントとなってきます。頬骨弓部には咬筋という筋肉が付着していますので、その筋肉の力で下方に牽引されて予期しない位置で骨がくっついてしまったりすることがあります。また骨は骨同士が接触していないと十分な骨新生が起きず、十分な強度が得られなかったり、骨の吸収が起こってしまったりということが考えられます。ですからしっかりと固定することは大変重要なこととなります。

図1 頬骨骨切り術



## エラの手術(図2)

一般にエラといわれている部分は<sup>かがかく</sup>下顎角という部分を指します。エラの張っている人はアゴ先からこの下顎角までのライン、いわゆるフェイスラインが水平に近くなり、また顔幅が広くなるため四角い顔に見えます。フェイスラインを適度な角度にするためと正面から見た幅をほっそり見せるための手術がエラの手術です。

きれいなフェイスラインを出すためには、下顎骨下縁の骨を角部からアゴ先までスティック状に切除します。必要に応じて下顎骨の外側の骨(外板)を削るか、もしくは切除を行います。これで正面からはほっそり、横からはエラの張りがなくなったきれいな下顎骨のラインを作り出すことができます。下顎角の部分だけ斜めに骨を切り取ったり、下顎角を取り過ぎたりしてしまうと、「犬アゴ」と呼ばれる不自然な形態になってしまいますので、注意が必要です。

また下顎骨の中には神経が通っているため、この神経を傷つけない範囲で骨を切るので過剰な切除は控えなければなりません。

## オトガイ(アゴ先)の手術

アゴ先のことをオトガイといいます。アゴ先が長い、後退している、細くしたいなどが悩みの場合、オトガイ形成術の適応となります。

アゴが長い場合、アゴ先の先端の骨を切り取ってしまう手術法がありますが、アゴの先端には筋肉が付着しているため、この部分を切り取ってしまうと筋肉がたるみ、二重アゴの原因となることがあるので、あまりお勧めはしません。俗に言う「中抜き」という方法で、だるま落としのようにアゴ先の中央の骨を切除しアゴの長さを調整する方法がよく用いられています(図3)。この場合、骨の固定にチタ

ン製のプレートを用いる必要があります。

アゴ先が後退している場合には、アゴ先の骨を切って前に出してチタン製のプレートで固定します。前述した長さを短くする手術も同時に行うことが可能です。アゴ先を細くしたい場合にはアゴ先の骨を水平に骨切りした後、中央部分の骨を切除し両側の骨片を引き寄せることにより、アゴ先を細くします(Vライン)。骨の固定にはチタン製のプレートを用います。引き寄せた骨の外側には段差が生じますので、その部分も丁寧に修正し、段差のないきれいなラインを作ります。またシンプルにアゴ先の横の骨を切り取ってアゴ先を細くする場合もあります。この場合には固定の必要はありません。

アゴ先の手術はオトガイ神経が手術操作の邪魔になりますので、神経を愛護的に扱う必要があります。アゴ先の形を整えるオトガイ<sup>かたち</sup>形成術で、理想的なEライン(鼻尖とオトガイ<sup>かたち</sup>最突出点を結ぶライン。口唇がこのラインに接するか、もしくはやや内側にあることが理想とされている)を作り出すことができます。

オトガイもエラも下顎骨の一部です。下顎骨は1つの骨ですから、どこかを部分的に削ったり切除したりするのではなく、全体を見据えて下顎骨全体のバランスを整えていかなければなりませんので、前に述べたエラの手術とオトガイの手術は同時に考えていく必要があります。

## 両アゴ手術

両アゴ手術とはルフォー1型骨切り術とSSRO(下顎<sup>しじょう</sup>枝矢状分割骨切り術)のことをいいます。

図2 エラ手術

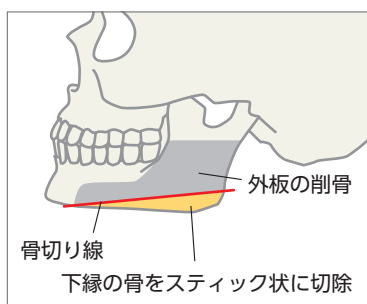
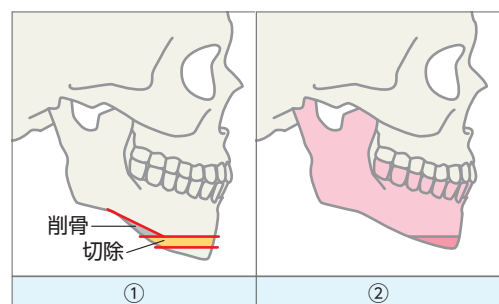


図3 オトガイ形成術(中抜き)



これらの手術では、上顎と下顎の骨切りを行って移動させることによって口元の突出や顔の長さ、下顎の前突、オトガイの後退などを改善させることができます。さまざまな動きをさせることができるので、非常に有効な手術ですが、適応を誤ると思いがけない結果になることがあるので注意が必要です。例えば笑うと歯茎が見える「ガミースマイル」の人に両アゴ手術で顔を短くするのは非常によい適応ですが、ガミースマイルがない人の顔を短くすると、歯の見え方が悪くなり、「逆ガミー」といわれる笑ったときに下の歯が見えてしまうようなトラブルになります。口元が出ているからといって下げ過ぎても、やはり歯の見え方が悪くなり不自然になります。結局は、やり過ぎることによるトラブルなので、どのくらい変化させるかは主治医とよく相談することが大事です。

また咬み合わせに影響する手術なので、顎間固定といって、手術部位の安静と咬み合わせがずれないようにするために上下の歯を咬み合わせた状態で固定する必要があります。ギプスの代用とお考えください。おおよそ2～3週間の固定ですが、その間の食事は流動食となります。

## 麻酔・入院について

顔面輪郭形成術は通常、全身麻酔で手術を行います。全身麻酔は専門の麻酔科医に行ってもらうのがより安全なので、手術前に確認していただくのがよいと思います。また、全身麻酔下の手術であること、術後の腫れがかなり強く出ること、術後の出血の可能性等を考えると、術後は入院することが望ましいです。

## リスクについて

術中術後の出血、感染、周辺の血管、神経の損傷、術後の腫れなどが大きなリスクとして挙げられます。特に唇、アゴ周辺の知覚異常は必ずといっていいほど生じます。通常は6カ月ほどでほぼ回復してきますが、多少の知覚障害が

残る可能性があります。

また、両アゴ手術の場合には咬み合わせのずれが生じる可能性がありますので、矯正歯科医との連携が非常に大切です。両アゴ手術の場合、鼻の土台となっている上顎を移動させるので、鼻の変形が生じることがあります。手術中に変形を予防する手段を講じますが、それでもなお変形が生じる可能性がありますので、その点も主治医とよく相談する必要があります。

顔面輪郭形成術では皮膚がたるむとよくいわれています。ただ、これは多くを望むあまり骨を取り過ぎることが最大の原因です。骨を取り過ぎたことによって骨と皮膚のバランスが崩れて、皮膚のたるみが目立ってしまうのです。大事なことはバランスですので、やり過ぎには気をつけてください。

## 手術後の注意点

顔面輪郭形成術は骨を切ったり削ったりする大きな手術ですので、手術後は腫れや内出血がかなり目立ちます。3週間ほどすると大きな腫れや内出血は目立たなくなりますが、完全に腫れが取れて手術の結果が出るまでには、おおよそ半年くらいかかります。手術後は徐々に腫れが引いてきますが、いったん腫れが治まってきていたのに急に腫れが強くなってきた場合や発熱した場合、傷口から膿うみのようなものが出てきている場合は感染の可能性がありますので、すぐに手術を受けた病院を受診してください。

## 韓国での手術

韓国が美容大国であるという認識から、韓国で手術を受ける人もいます。美容の手術は手術を受ける人が要望を細かく伝え、どの程度それが達成可能かを医師から細かく聞く必要があります。それ故、通訳を介してどの程度意思疎通が図れているかに不安があります。また手術後の経過観察も長くかかりますので、その点も考慮して検討されることをお勧めします。